vinetur

イタリアワインの米国向け輸出、第3四半期に17％近く増加

業界団体は、米国でのイタリアワイン消費が5.3％減のままだったことから、輸入の回復は在庫補充を反映している可能性があると指摘した

2026年11月11日（水）



イタリアワインの米国向け輸出は第3四半期に増加し、約1年半にわたる減少の後、生産者にいくらかの安堵をもたらした。ただ、業界関係者は、今回の改善だけでは実需の明確な回復を示すには至っていないと述べた。

L'Informatore Agrarioが11月10日（火）に公表したデータによると、イタリアのワイン業界団体Unione Italiana Vini（UIV）の情報を引用し、7月から9月までのイタリアワインの対米出荷額は約17%増加した。同期間の対米輸出量も6.6%増となった。

この反発により、9月までの年初来の減少幅は縮小した。9月末時点でイタリアワインの対米輸出は累計で6%減となり、上半期の14%減から改善した。米国は世界最大のワイン市場であり、イタリアの生産者にとって重要な輸出先でもあるため、この改善は単一四半期の販売実績を超える意味を持つ。

米国市場の回復は、欧州連合（EU）域外への輸出全体の実績も押し上げた。2026年の最初の9カ月間、イタリアワインの輸出は年初の低調な滑り出しの後、改善の兆しを見せた。最初の7カ月間に5.3%減となった後、第3四半期のEU域外市場向け輸出額は8%増加し、累計の減少幅は3%に縮小した。9月末までに、これらの市場での販売額は約33億ユーロ、販売量は7億4,000万リットルを超えた。

一方、UIVは危機が終わったとみなすべきではないと述べた。同団体によると、米国でのイタリアワイン消費は5.3%減のままで、最近の輸入増加は、需要が実際に回復したというより、買い手による在庫の積み増しが主因だった可能性がある。ワイン企業やその他の飲料輸出業者にとって、この違いは重要になり得る。在庫補充のサイクルは小売販売の持続的な改善を示さないまま、発注を一時的に押し上げることがあるためだ。これは米国市場における生産計画、販売計画、在庫判断に影響する可能性がある。

米国以外の主要なEU域外市場では、いくつか例外はあるものの、全体として低調な状況が続いた。L'Informatore Agrarioによると、ロシア、中国、ブラジルでは輸出が引き続き伸びた一方、その他の主要な輸出先では勢いが限られていた。

ワシントンが導入した規制に関連する難しさがあるにもかかわらず、米国市場はイタリアのワイナリーにとって依然として最重要市場の一つだ。UIVが最近実施した調査では、約75%の企業が、販促費の主な投下先として米国市場を挙げた。

業界はまた、過剰生産能力に関する米国の調査の行方を注視している。この調査では、国内市場で吸収できる量を大幅に上回る生産を各国が行っているかどうかが検証される。飲料部門も対象に含まれており、欧州製品に対する新たな貿易措置につながる可能性がある。米国での販売回復を目指すイタリアワイン輸出業者にとって、不確実性がさらに高まる要因となっている。